
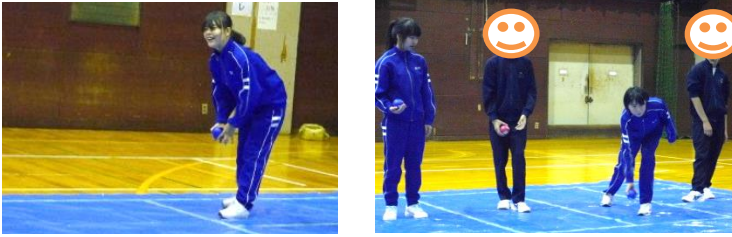



事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意識や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【 京都府 】

学校名【 京都府立舞鶴支援学校 】

1 実践テーマ	【 I III V 】
2 実施対象者	小学部（7組の4年生3人） 中学部16名（4、5組の1年生4人、2年生6人、3年生6人） 高等部（12組の3年生8人）
3 展開の形式	（1）学校における活動 ① 教科名（ 特別活動、総合的な学習の時間 ） ② 行事名（ ） ③ その他（ ） （2）地域における活動 ① イベント名（ ） ② その他（ ）
4 目標 （ねらい）	（1）競技をする上でのルールやマナーを学び、競技力を高める中で達成感を味わわせ、自己肯定感を高める。 （2）競技を通して、人と関わる力を高め、互いに尊重し、協力・共同することの大切さを学ばせる。
5 取組内容	<p><小学部></p> <p>地域の小学校との交流学习としてボッチャに取り組んだ。交流する内容の提案が小学校からあり、ともに楽しめるスポーツということでボッチャに取り組むことにした。交流を深めることを目標に、事前学習の中でボッチャのルールを確認したり、練習を行ったりした。</p>  <p><中学部></p> <p>地域の中学校との交流学习としてボッチャに取り組んだ。事前に交流する中学校へ指導者3名が出向き、生徒会のメンバー数名と担当指導者1名に向けて簡単なルールの講習会を行った。また、校内における事前学習としては交流することの意義の確認やボッチャのルールの学習等に1時間設けた。事後学習では交流の振り返りを行った。</p> 

	<p><高等部> 国際パラリンピック委員会公認教材である「I'm POSSIBLE」を参考にし、総合的な学習の時間において3時間の授業を設けた。1、2時間目にオリンピックやパラリンピックへの関心を向けさせたり、意義を確認したりした。3時間目には実際にパラスポーツであるゴールボールに取り組んだ。</p> 
<p>6 主な成果</p>	<p><小学部> 互いに応援し合ったり、ボールが的の近くにいくと自然と拍手が起きたりととても盛り上がった。ボッチャを通して交流を深めることができた。</p> <p><中学部> 点が取れるように投げ方や投げる時の強さを考えながら行ったり、他者を応援し合ったりすることができた。交流会参加生徒の感想では、「試合は負けてしまったけど、中学校の友達と試合ができて楽しかったです。」「誰にでも取り組めるボッチャを通してお互いの仲を深めることができた。」と、交流が充実したものであると思われる内容であった。</p> <p><高等部> オリンピック、パラリンピックへの興味や関心を高め、何事も工夫すればできないことはないといった心構えを学ぶことができた。また、ゴールボールを体験したことで競技における配慮や工夫点に気付いたり、コミュニケーションの大切さを学んだりすることができた。</p>
<p>7 実践において工夫した点 (事業の特色)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ブルーシートにボッチャ用のコートを作り、持ち運びができるように工夫した。 ・ルールを支援学校の児童生徒が理解し易いものに変更した。
<p>8 主な課題等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・中学校でボッチャが広がっていないため、事前に講習会を行う必要がある。 ・ルールを生徒の実態に合わせて作っているため、公式ルールでの取り組みが難しい。
<p>9 来年度以降の実施予定</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、ボッチャを通して他校と交流をする。 ・地域の方々ともボッチャを通して交流していきたい。 ・オリンピック・パラリンピックに興味や関心を持たせられるような取り組みを広げていきたい。